

調べ案内

作成者: 戸田市立図書館 / 作成日: 2018.6.1

／改訂: 2021/04/18



かじや しんでんぐち 鍛冶谷・新田口遺跡について調べるには

〒335-0021 戸田市大字新曾1707 TEL442-2800 HP <https://library.toda.saitama.jp/>

戸田市では現在 11 の遺跡の存在が確認されています。その中の一つ「鍛冶谷・新田口遺跡」は、弥生時代後期から古墳時代前期の集落跡で、遺構及び遺物が多数発見され「埼玉県選定重要遺跡」※1 に指定されています。

※1 「鍛冶谷・新田口遺跡」が埼玉県選定重要遺跡に指定されたのは、1976年10月1日です。『埼玉県文化財目録』（平成28年3月現在、埼玉県教育委員会、2016）p.116「6重要遺跡」内で確認できます。

「鍛冶谷・新田口遺跡」について調べるためのキーワード

鍛冶谷・新田口遺跡、^{ほうけいしゅうこうぼ}方形周溝墓、関東の集落遺跡、荒川下流域、低地遺跡、
周溝を持つ建物、古墳時代前期、弥生時代後期

オンライン目録(OPAC)、インターネット及び各種データベースを検索する際の参考にしてください。

テーマの棚に行って本を探す

●図書館の本は一冊ずつ分類記号が付いています。棚の本は分類記号の番号順に並んでいます。「鍛冶谷・新田口遺跡」に関する資料には、以下の分類記号が付いています。本を探すときの目安にしてください。

「鍛冶谷・新田口遺跡」に関する主な分類記号 ※これがすべてではありません。

069	博物館	210.2	考古学	213.4	埼玉県の歴史
291.34	埼玉県の地誌	709.1	日本の文化財		-

目次

- p.2 [戸田市に関する資料で調べる](#)
- p.5 [埼玉県に関する資料で調べる](#)
- p.7 [その他の資料で調べる](#)

～資料の紹介について～

- 紹介した資料は、当館が把握しているすべての資料ではありません。今回は戸田市立図書館で所蔵している資料(一部埼玉県立図書館所蔵資料あり)に限りしました。
- 戸田市立図書館内で複本資料がある場合は、中央図書館2階の郷土資料を優先して紹介しました。郷土資料は貸出しできません。貸出しできる資料があるか、分館及び分室で所蔵している資料があるか等複本の確認が必要な場合は、OPACで検索してください。

戸田市に関する資料で調べる

■「鍛冶谷・新田口遺跡」について調べる場合は、戸田市の歴史及び文化財を調べるための資料、郷土博物館が発行した資料、遺跡調査報告書、広報等を見てください。

【戸田市の歴史及び文化財を調べるための資料】

「鍛冶谷・新田口遺跡」について基本的な情報を調べる場合に活用できます。

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『戸田市史』 通史編 上	戸田市	1986	T213.4	中央2階・戸田市関連郷土資料
	<p>p.269-273 「鍛冶谷一号方形周溝墓」 弥生時代後期の集落について述べたページで、同遺跡の遺跡発見経緯及び第一次発掘調査の成果が報告されています。</p> <p>p.279-285 「鍛冶谷・新田口遺跡」 古墳時代前期に出現した方形周溝墓について述べたページで、同遺跡の遺構及び遺物を紹介しています。</p> <p>p.355-357 「前期の集落」内 p.357-359 「竪穴住居」内 同遺跡から発見された遺構及び出土品について触れられた箇所があります。</p>			
『戸田市史』 資料編 1	戸田市	1981	T213.4	中央2階・戸田市関連郷土資料
	<p>p.7-8 「戸田市の原始・古代遺跡研究略史」内 同遺跡発見の経緯及び発掘調査の概要が掲載されています。</p> <p>p.13-58 「鍛冶谷・新田口遺跡」 同遺跡の第1次及び第2次発掘調査の報告が掲載されています。</p>			
『戸田むかし史ある記』 <small>ふみ</small>	戸田市教育委員会	1982	T213.4	中央館階・戸田市関連郷土資料
	<p>p.35-36 「鍛冶谷・新田口遺跡」 同遺跡の概要を知ることができます。</p>			
『戸田市史研究』 第6号	戸田市	1984	T213.4	中央2階・戸田市関連郷土資料
	<p>p.29-50 塩野博「荒川下流域における墓制の変遷」 荒川下流域における墓制の変遷についての論文です。同遺跡を例に挙げて論じています。</p>			
『戸田市史研究』 第9号 (第6号-第10号合本内)	戸田市	1993	T213.4	中央2階・戸田市関連郷土資料
	<p>p.32-61 福田聖「方形周溝墓と火」 同遺跡でも多く発見された方形周溝墓内の土器に、火を使用した痕跡があることについての意味を論じたものです。</p>			
『戸田の歴史と文化』	戸田市秘書課・市史編さん室	1978	T213.4	中央2階・戸田市関連郷土資料
	<p>p.3-4 「郷土のあけぼの」 同遺跡発見の経緯及び遺跡の概要を知ることができます。</p>			
『戸田市の 指定文化財』	戸田市教育委員会	1988	T709.1	中央2階・戸田市関連郷土資料
	<p>p.25 「鍛冶谷・新田口遺跡（方形周溝墓群）」 同遺跡の概要を知ることができます。</p>			

[▲このページのトップへ戻る。](#)

【郷土博物館が発行した資料】

戸田市内の遺跡から発掘された遺物は郷土博物館で保管している物もあり、展示図録及び研究紀要には、「鍛冶谷・新田口遺跡」に関する記述が載っている場合があります。

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『戸田市立郷土博物館 常設展示図録』	戸田市立郷土博物館	1997	T069.9	中央2階・戸田市関連郷土資料
	p.10-13「古代の戸田」、p.16-17「荒川と古代の交易」 同遺跡の簡単な紹介及び展示されている遺物の写真を掲載しています。			
『常設展示案内』	戸田市立郷土博物館	1990	T069.9	中央2階・戸田市関連郷土資料
	p.10-11「社会のなりたち」、p.15「農具・工具」、p.16「荒川と古代の交易」 同遺跡から出土した土器、農具等の写真を掲載しています。			
『4世紀の世界』 第1回特別展	戸田市立郷土博物館	1985	T069.9	中央2階・戸田市関連郷土資料
	p.4-5「方形周溝墓の展開」、p.17-22「鍛冶谷・新田口遺跡の隆盛」 同遺跡の概要及び発掘された土器の写真を紹介しています。			
『時は、弥生から古墳へ』 第22回特別展	戸田市立郷土博物館	2006	T069.9	中央2階・戸田市関連郷土資料
	p.5-8「戸田の遺跡を掘る -自然堤防上に遺跡を発見-」、p.14-22「近年の発掘調査の記録」内、p.31-32「土器は時のものさし」内、p.36-43「暮らしの豊かさ」内、p.47「鍛冶谷・新田口遺跡をめぐるもう一つの視点」、p.50「鍛冶谷・新田口遺跡 -周溝をもつ建物跡では？」 同遺跡発見の経緯、発掘調査実施についての説明、出土した遺物（展示品）の写真、同遺跡発掘による様々な発見について等を掲載しています。			
『研究紀要』第4号	戸田市立郷土博物館	1989	T069.6	中央2階・戸田市関連郷土資料
	p.11-24 福田聖「鍛冶谷・新田口遺跡の外来系土器（1）-北陸地方東部系土器に関する一考察-」 同遺跡で見つかった外来系土器の系譜及び移入経路について考察した論文です。			
『研究紀要』第5号	戸田市立郷土博物館	1990	T069.6	中央2階・戸田市関連郷土資料
	p.25-49 福田聖「鍛冶谷・新田口遺跡の外来系土器（2）-東海・北陸・畿内・山陰・吉ヶ谷系土器の様相と編年の位置-」 同遺跡で見つかった外来系土器の系譜と移入経路について考察した論文の第2弾です。			
『研究紀要』第6号	戸田市立郷土博物館	1991	T069.6	中央2階・戸田市関連郷土資料
	p.41-63 福田聖「鍛冶谷・新田口遺跡の外来系土器（3）」 同遺跡で見つかった外来系土器の系譜と移入経路について考察した論文の第3弾です。			
『研究紀要』第8号	戸田市立郷土博物館	1993	T069.6	中央2階・戸田市関連郷土資料
	p.40-53 福田聖「鍛冶谷・新田口遺跡の漁具-前篇」 同遺跡で見つかった漁具について紹介した論文です。			
『研究紀要』第20号	戸田市立郷土博物館	2007	T069.6	中央2階・戸田市関連郷土資料
	p.18-26 福田聖「鍛冶谷・新田口遺跡の玉作資料」 同遺跡で見つかった玉作資料について紹介した論文です。			

[▲このページのトップへ戻る。](#)

【遺跡調査報告書】

遺跡についての詳細を知りたいときは、遺跡発掘の調査報告書を見てみましょう。

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『鍛冶谷遺跡第1次発掘調査概報』	戸田市教育委員会	1968	T210.2	中央2階・戸田市関連郷土資料
	1967年に実施された第1次発掘調査の報告書です。発掘の経緯、経過、遺跡の概要、遺構、遺物、まとめ等を掲載しています。			
『鍛冶谷・新田口遺跡 方形周溝墓群の調査』 戸田市文化財調査報告Ⅱ	埼玉県戸田市教育委員会	1969	T210.2	中央2階・戸田市関連郷土資料
	第1次（1967年実施）及び第2次（1968年実施）発掘調査の報告書です。発掘の経緯、経過、遺跡の概要、遺構、遺物、まとめ等を掲載しています。			
『鍛冶谷・新田口遺跡 第3次発掘調査概要』 戸田市文化財調査報告15	戸田市教育委員会	1984	T210.2	中央2階・戸田市関連郷土資料
	1982年に実施された第3次発掘調査の報告書です。発掘の経緯、経過、遺跡の概要、遺構、遺物、まとめ等を掲載しています。			
『鍛冶谷・新田口遺跡』V 埼玉県戸田市遺跡調査会報告書 第2集	戸田市遺跡調査会	1990	T210.2	中央2階・戸田市関連郷土資料
	1989年に実施された第5次発掘調査の報告書です。発掘の経緯、経過、遺跡の概要、遺構、遺物、まとめ等を掲載しています。			
『鍛冶谷・新田口遺跡』VI 埼玉県戸田市遺跡調査会報告書 第4集	戸田市遺跡調査会	1994	T210.2	中央2階・戸田市関連郷土資料
	1992年に実施された第6次発掘調査の報告書です。発掘の経緯、経過、遺跡の概要、遺構、遺物、まとめ等を掲載しています。			
『鍛冶谷・新田口遺跡』VII 埼玉県戸田市遺跡調査会報告書 第8集	戸田市遺跡調査会	2001	T210.2	中央2階・戸田市関連郷土資料
	1997年に実施された第7次発掘調査の報告書です。発掘の経緯、経過、遺跡の概要、遺構、遺物、まとめ等を掲載しています。			
『鍛冶谷・新田口遺跡』VIII 埼玉県戸田市遺跡調査会報告書 第10集	戸田市遺跡調査会	2005	T210.2	中央2階・戸田市関連郷土資料
	1999年に実施された第8次発掘調査の報告書です。発掘の経緯、経過、遺跡の概要、遺構、遺物、まとめ等を掲載しています。			
『鍛冶谷・新田口遺跡』9 埋蔵文化財発掘調査報告書 戸田市文化財調査会報告 23	埼玉県戸田市教育委員会	2015	T210.2	中央2階・戸田市関連郷土資料
	2015年に実施された第9次発掘調査の報告書です。発掘の経緯、経過、遺跡の概要、遺構、遺物、まとめ等を掲載しています。			
『鍛冶谷・新田口遺跡』10 埋蔵文化財発掘調査報告書 戸田市文化財調査会報告 24	埼玉県戸田市教育委員会	2016	T210.2	中央2階・戸田市関連郷土資料
	2015年に実施された第10次発掘調査の報告書です。発掘の経緯、経過、遺跡の概要、遺構、遺物、まとめ等を掲載しています。			
『鍛冶谷・新田口遺跡』11 埋蔵文化財発掘調査報告書 戸田市文化財調査会報告 31	埼玉県戸田市教育委員会	2021	T210.2	中央2階・戸田市関連郷土資料
	2015年に実施された第11次発掘調査の報告書です。発掘の経緯、経過、遺跡の概要、遺構、遺物、まとめ等を掲載しています。			

●第4次発掘調査の報告書は、p.6「埼玉県に関する資料で調べる」で紹介しています。

[▲このページのトップへ戻る。](#)

【戸田市の広報等】

市内にある遺跡については、戸田市の広報等で紹介されることがあります。戸田市立図書館では過去の広報紙も収集しています。活用してください。

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『広報戸田』 昭和57年8月1日号 (昭和57年版内)	戸田市役所	1982	T318.2	中央2階・戸田市関連郷土資料
	p.17「戸田のあけぼの(四)・鍛冶谷遺跡」 遺跡発見の経緯及び概要を掲載しています。			
『広報戸田』 昭和58年2月1日号 (昭和58年版内)	戸田市役所秘書課	1983	T318.2	中央2階・戸田市関連郷土資料
	p.19「戸田のあけぼの(十)・ ^{こしき} 甕を持った住居跡」 第2次発掘調査で発見された住居跡の出土品等を紹介しています。			
『広報戸田』 昭和58年12月1日号 (昭和58年版内)	戸田市役所秘書課	1983	T318.2	中央2階・戸田市関連郷土資料
	p.16「戸田のあけぼの(二十)・東北新幹線用地の発掘」 第4次発掘調査の実施で大きな成果があったことが報告されています。			
『戸田教育広報』 1967年8月(No.3) (合本 創刊号～最終号内)	戸田市教育委員会	1967	T372.1	中央2階・戸田市関連郷土資料
	p.8 塩野博「戸田市上戸田鍛冶谷遺跡の発掘調査 -その経過と成果-」 第1次発掘調査の概要、結果及び課題について概要報告されています。			

埼玉県に関する資料で調べる

■「鍛冶谷・新田口遺跡」は「埼玉県選定重要遺跡」に指定されていることから、同遺跡について調べる場合、埼玉県に関する資料も活用できます。埼玉県、埼玉県埋蔵文化財調査事業団及び埼玉考古学会が発行している資料を確認してみましょう。

【埼玉県が発行している資料】

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『新編埼玉県史』通史 編1	埼玉県	1987	T213.4	中央2階・郷土資料架
	p.247-249「大周溝墓群の形成」、p.255-256「北足立地方」、p.281-282「集落の立地とその特色」、p.283-284「北足立地方」内 埼玉県内で発見された古墳時代の集落跡、方形周溝墓群、出土品等に触れた文章の中に同遺跡名が登場します。			
『新編埼玉県史』資料 編2	埼玉県	1982	T213.4	中央2階・郷土資料架
	p.65-67「鍛冶谷・新田口(かじや・しんでんぐち)遺跡」 遺跡の概要、出土した弥生時代の土器2種の写真及び実測図を掲載しています。 p.164-165「鍛冶谷・新田口(かじや・しんでんぐち)遺跡」 同遺跡で発見された古墳時代の遺構及び出土品についての概要、遺跡の全測図、土器の実測図等を掲載しています。			
『埼玉県埋蔵文化財調査年報』昭和57年	埼玉県教育委員会	1984	T210.2	中央2階・郷土資料架
	p.24-25「鍛冶谷新田口遺跡」 昭和57年に実施した発掘調査の概要及び成果をまとめたものです。			

[▲このページのトップへ戻る。](#)

【埼玉県埋蔵文化財調査事業団が発行した資料】

埼玉県埋蔵文化財調査事業団は、県内の埋蔵文化財発掘調査事業を実施し、その成果を公開、学術・文化の振興及び発展に寄与することを目的として設立された公益財団法人です。

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『東北新幹線関係埋蔵文化財発掘調査報告』 6 鍛冶谷・新田口遺跡(埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第62集)	埼玉県埋蔵文化財調査事業団	1986	T210.2	中央2階カウンター
	東北新幹線開設工事に伴い実施された同遺跡の第4次発掘調査報告書です。発掘の経緯、経過、遺跡の概要、遺構、遺物、まとめ等を掲載しています。			
『研究紀要』第9号	埼玉県埋蔵文化財調査事業団	1992	T210.2	中央2階・郷土資料架
	p.59-102 福田聖「鍛冶谷・新田口遺跡出土土器の分析 前編」 同遺跡から出土した土器の分析結果を掲載しています。			
『研究紀要』第18号	埼玉県埋蔵文化財調査事業団	2003	T210.2	中央2階・郷土資料架
	p.21-40 福田聖「埼玉県における低地の周溝墓と建物跡(6)-鳩ヶ谷・戸田・和光市域の低地遺跡について-」内 埼玉県内の低地で発見された周溝墓及び建物跡について検証している論文の中に、同遺跡名が多数登場します。			
『埼玉考古学論集』 設立10周年記念論文集	埼玉県埋蔵文化財調査事業団	1991	-	埼玉県立図書館
	p.551-568 福田聖「方形周溝墓と儀礼-鍛冶谷・新田口遺跡第12号方形周溝墓の死者儀礼」 同遺跡を例に方形周溝墓における死者儀礼の過程を検証した論文です。			

【埼玉考古学会が編集又は発行した資料】

埼玉考古学会は、昭和30年(1955)に県内考古学研究者により、考古学の発展を目的として設立された組織です。機関誌『埼玉考古』の発行、遺跡報告会の開催等を実施しています。

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『埼玉考古』第34号 (第34-37号の合本内)	埼玉考古学会	1999	T210.2	中央2階・郷土資料架
	p.31-54 福田聖「埼玉県における低地の周溝墓と建物跡(1)-周溝墓とは何かを探るための試み-」 埼玉県内の低地で発見された周溝墓及び建物跡について検証している論文の中に、同遺跡名が多数登場します。			
『埼玉考古』第36号 (第34-37号の合本内)	埼玉考古学会	2001	T210.2	中央2階・郷土資料架
	p.37-66 福田聖「埼玉県における低地の周溝墓と建物跡(5)-鍛冶谷・新田口遺跡-」 同遺跡で発見された周溝墓及び建物跡について検証した論文です。			
『埼玉の考古学』2	六一書房	2006	T210.2	中央2階・郷土資料架
	p.285-304 福田聖「方形周溝墓・周溝の覆土と出土状況 -鍛冶谷・新田口遺跡-」 同遺跡で発見された周溝及び周溝墓の遺物出土状況、覆土等について検討した論文です。			

[▲このページのトップへ戻る。](#)

【その他の埼玉県関係資料】

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『埼玉大百科事典』 1	埼玉新聞社	1981	T031	中央2階・郷土資料架
	p.367-368「かじや・しんでんぐちいせき 鍛冶谷・新田口遺跡」 第1次及び第2次発掘調査が終了した時点での遺跡の概要を知ることができます。			

その他の資料で調べる

■戸田市及び埼玉県に関する資料以外で「鍛冶谷・新田口遺跡」について調べる場合は、歴史及び地理の事典、又は遺跡発掘調査にかかわった研究者の著作を探してみるとよいでしょう。

【歴史及び地理の事典】

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『日本歴史地名大系』 11	平凡社	1993	R291.0	中央2階・参考資料室
	p.206「鍛冶谷・新田口遺跡」 遺跡の概要を知ることができます。			

【発掘調査にかかわった人物の著作】

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『方形周溝墓の再発見』	同成社	2000	T210.2	中央2階・戸田市関連郷土資料
	p.10-17「検討の範囲」、p.59-67「荒川低地」、p.84-91「低地の方形周溝墓の各要素」、p.92-95「周溝を有する住居跡」、p.98-99「周溝を有する掘立柱建物跡」内、p.99-103「低地の住居跡と建物跡」、p.105-106「方形周溝墓と周溝を有する建物跡」、p.176「方台部の平面形」内 同遺跡の調査に携わった福田聖氏の著作物です。埼玉県内で発見された弥生時代終末から古墳時代前期の方形周溝墓を中心に、方形周溝墓とは何かを論じたものです。随所に鍛冶谷・新田口遺跡の方形周溝墓、周溝を有する建物跡及び出土土器が登場します。			
『低地遺跡からみた関東地方における古墳時代への変革』	六一書房	2014	T210.2	中央2階・戸田市関連郷土資料
	同遺跡の調査に携わった福田聖氏の博士論文です。関東地方における古墳時代開始期の変革について低地遺跡の様相の検討を行った論文で、低地遺跡の例として鍛冶谷・新田口遺跡が多数登場します。掲載ページは、同書の遺跡名索引「鍛冶谷・新田口」より確認してください。 この論文は、早稲田大学に提出された博士論文のため、「早稲田大学リポジトリ（アドレス： https://waseda.repo.nii.ac.jp ）」からも閲覧することができます。検索窓で論文名を入力して検索してください。※サイト最終閲覧日：2021/12/24			

[▲このページのトップへ戻る。](#)